

会 告

平成 17 年度農業土木学会賞候補の推薦について (再々々).....	73
平成 16 年度日本農学賞候補の推薦について (再々々).....	73
「農業土木学会の名称を考える」シンポジウムの開催について (第 3 報) 	73
第 7 回中央講習会の開催について 地域環境工学シリーズの解説 (第 3 報) 	73
第 10 回中央研究集会開催について 地域のバイオマスの利活用推進に向けたチャレンジ (第 2 報) (仮) 	74
第 21 回水士技術セミナー「水利構造物の性能設計」(再) 	75
土地改良施設管理基準「ダム編」の発行について.....	75
平成 16 年度農業土木学会地方講習会テキストについて	75
「平成 16 年度会員名簿」予約申込みのご案内	76
投稿原稿の閲読状況が確認できます!	76
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について.....	76
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め.....	77
農業土木学会誌への投稿お待ちしております! 小特集以外の投稿も歓迎します.....	77
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 17 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集	78
第 53 回北海道支部研究発表会の開催について (第 2 報) 	79
第 33 回中国四国支部研修会・第 28 回地方講習会の開催について (第 3 報) 	79
農地保全研究部会第 25 回研究集会 (第 3 報) 	80
平成 16 年度農村道路研究部会研究集会および現地見学会開催について	80
平成 16 年度応用水理研究部会研究集会の開催について (第 1 報)	80
第 42 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 1 報)	81
第 51 回風に関するシンポジウムの講演募集について	81
学会記事	82

農業土木学会 (本部) 行事の平成 16 年度計画

農業土木学会 (本部) 16 年度行事について、下表のように計画しています。奮ってご参加下さるようお待ちしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中 () を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 16 年 9 月 29 日 ~ 30 日	行事企画委員会	第 7 回中央講習会 	地域環境工学シリーズの解説	東京大学	72 巻 789 号
平成 16 年 10 月 13 日	農業土木学会 農業工学研究所	第 10 回中央研修集会 	地域のバイオマスの利活用推進に向けたチャレンジ	東京大学	72 巻 89 号
平成 16 年 10 月 21 日 ~ 22 日	高度技術セミナー 実行委員会	第 21 回水士技術セミナー 	水利構造物の性能設計	農業土木 学会館	72 巻 89 号

次号 72 巻第 10 号予定

展望: 「知的財産を豊かに」: 佐藤 寛

小特集: 農業土木と特許

知的財産権をとりまく近年の動向: 加藤 宏郎

官民共同研究が基盤整備研究に果たす役割と展望: 藤森 新作

官民共同研究が造構研究に果たす役割と展望: 毛利 栄征

愛知県農業総合試験場・農業工学グループの特許出願の歴史: 榎原 正典

鹿児島県の農業土木における知的財産権: 前田 勉他

講座: 生物・社会調査のための統計解析入門: 調査・研究の現場から (その 3) 2 群を比較する : 神宮字 寛

小講座: 特許取得の基本的事項: 鈴木 征四郎

私のビジョン: 地方行政における他分野との連携・役割分担: 森田 敏夫

論文をかたる: 再生素材の利用による赤土系土壌の流出特性: 日下 達朗

農業土木学会関連行事予定

平成 16 年 10 月	農村生態工学研究部会	地方研究会			兵庫県	
平成 16 年 10 月 13~14 日	中国四国支部	第 59 回支部講演会			岡山市	72巻68号
平成 16 年 10 月 14~15 日	水文・水環境研究部会	第 17 回シンポジウム		農林地および広域の水文・水環境	茨城大学 農学部	72巻5号
平成 16 年 10 月 26,27 日	中国四国支部	第 33 回支部研修会・第 28 回地方講習会			高知市	72巻68,9号
平成 16 年 10 月 27 日	北海道支部	第 53 回研究発表会			帯広市	72巻79号
平成 16 年 10 月 28,29 日	九州支部	第 85 回支部講演会・シンポジウム			熊本市	72巻78号
平成 16 年 11 月 4,5 日	東北支部	平成 16 年度総会・研究発表会・ 支部研修会・地方講習会			仙台国際 センター	72巻78号
平成 16 年 11 月 9,10 日	農地保全研究部会	第 25 回研究集会		低平地における農地保全と地 域資源の活用	佐賀市	72巻78,9号
平成 16 年 11 月 18,19 日	京都支部	第 61 回研究発表会			大津市	72巻67号
平成 16 年 11 月 18~19 日	九州支部	第 27 回地方講習会・第 35 回支部研修会			沖縄	72巻8号
平成 16 年 11 月	土壌物理研究部会	第 43 回研究集会				
平成 16 年 11 月 24~26 日	資源循環研究部会	平成 16 年度（第 2 回）研究発表会		農村における水やバイオマス 等有機資源の利活用および循 環に係る調査・研究	幕張メッセ	72巻6号
平成 16 年 11 月 25 日	北海道支部	第 30 回シンポジウム			北海道 札幌市	
平成 16 年 11 月 25,26 日	農村道路研究部会	平成 16 年度研究集会・現地見学会			アクトシティ 浜松	72巻9号
平成 16 年 12 月 17 日	材料施工研究部会	第 42 回シンポジウム		水利施設のストックマネージ メント(仮)	茨城県 つくば市	72巻9号
平成 16 年 12 月 16,17 日	応用水理研究部会	平成 16 年度応用水理研究部会研究集会		応用水理学分野の研究発表	九州大学	72巻9号
平成 17 年 1 月	農村生態工学研究部会	地方研究会			栃木県	
平成 17 年 1 月	関東支部	地方講習会および支部研修会			神奈川県	
平成 17 年 1 月 26 日	北海道支部	支部講演会			北海道 札幌市	
平成 17 年 3 月	水土文化研究部会	第 2 回水土文化研究部会		水土文化の持つ機能と共有認 識に向けて	農業工学 研究所	

学会誌 72・73 巻の小特集・特別企画のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字以内)	原 稿 締 切 (刷り上り 4 ページ厳守)
11 号 都市と農村の交流(農村観光)	公募終了	
12 号 国立大学法人化の波紋	"	
73 巻 1 号 水土文化遺産	"	
2 号 リフレッシュした愛知用水	公募なし	
3 号 貧困削減・平和構築と海外農業農村開発	平成 16 年 9 月 6 日	平成 16 年 10 月 12 日
4 号 圃場~流域レベルの水環境管理	平成 16 年 9 月 30 日	平成 16 年 11 月 10 日
5 号 技術者資格の国際化対応の現状と課題	平成 16 年 10 月 25 日	平成 16 年 12 月 10 日

上記のテーマに沿った報文の投稿をお待ちしております。

なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。会告 77 ページに掲載されている特集の趣旨をお読みいただいた後、公募要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、1号に収載の「農業土木学会誌投稿要項」および「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

平成 17 年度農業土木学会賞候補の推薦について（再々々）

平成 17 年度の農業土木学会賞（上野賞を除く）を、第 72 巻 6 号、p. 64 の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。締切りは、平成 16 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

日本農学賞候補の推薦について（再々々）

日本農学賞候補を、本誌第 72 巻第 6 号、p. 65 の推薦取扱規程に則って、ご推薦下さい。締切りは、平成 16 年 9 月末日です。

「農業土木学会の名称を考える」シンポジウムの開催について（第 3 報）

農業土木学会名称検討委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



当学会名称については、昭和 62 年頃から、変更を含めた議論が 3 回程度行われ、その都度、結論としては「継続して検討する」との答えが出されてきました。

その間には、例えば大学、高等学校など教育機関において学部名、学科名の名称変更が行われ、農業土木、農業工学は学科名としては殆ど残っていないなど、卒業した技術者・研究者にとって、農業土木学会が身近でない存在になってきています。

平成 11 年第 17 期理事会の提言「名称の議論の前に、まずビジョンの見直しをすべし」を受け、第 18、第 19 期理事会では 2 年をかけ、農業土木のビジョン「新たな〈水土の知〉の定礎に向けて」を平成 14 年 1 月策定、公表し、現在の学会活動のパイプとして位置づけています。

このビジョンに示された理念に合致し、かつ学会活動の活性化に寄与できる、新たな学会名称を検討するために新たに農業土木学会名称検討委員会を設置しました。今回のシンポジウムでは、参加者に委員会の趣旨を呼びかけ、意見を伺うことにより、名称を考える議論のスタートとして開催致しますので、奮ってご参加下さい。

1. 日 時 平成 16 年 9 月 7 日（火） 13：00～14：30

2. 場 所 北海学園大学 豊平キャンパス 60 番教室

3. プログラム

13：00～13：10 開会挨拶

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 田中忠次
（農業土木学会会長）

13：10～13：30 話題 1「基調講演」

これまでの農業土木学会の評価
東京農業大学国際食糧情報学部教授 佐藤洋平

13：30～13：45 話題 2 農業農村整備事業の展開方向

農林水産省農村振興局設計課長 齋藤晴美

13：45～14：00 話題 3 農業土木の将来

京都大学大学院農学研究科教授 三野 徹
（農業土木学会名称検討委員会委員長）

14：00～14：30 パネルディスカッション

コーディネータ：田中忠次

パネリスト：佐藤洋平

齋藤晴美

三野 徹

第 7 回中央講習会の開催について（第 3 報）

—地域環境工学シリーズの解説—

行事企画委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



第 7 回中央講習会のプログラムをお知らせ致します。参加ご希望の場合は、第 72 巻第 8 号、p. 88 の要領でお申し込み下さい。

1. テーマ 「世界の食糧問題と農業農村開発協力 国際協力 50 周年」と「畑地農業の新たな展開」に向けて

2. 場 所 東京大学弥生講堂（文京区弥生 1 1 1 東京大学内）
☎03 5841 8205 FAX 03 5841 8206

3. プログラム

農士誌 72（9）

第 1 日目 平成 16 年 9 月 29 日（水）

第 1 部 地域環境工学シリーズ 7「地球に根付く“開発とは”：国際協力の現場から 日本の海外農業農村開発協力」より
開会挨拶

10：10～11：20

（1）基調講演 世界の食糧問題の展望と国際協力

近畿大学 八丁 信正

11:30~12:40

(2) 農業農村開発協力の展開と今後の課題

農村振興局設計課海外土地改良技術室 塚元 重光

13:40~14:50

(3) 住民参加型農業・農村開発と日本の海外技術協力の仕組み

緑資源機構

15:00~16:10

(4) 国際農業農村開発協力の展開と稲作農業(アジアモンスーン地域)

筑波大学 佐藤 政良

16:20~17:30

(5) 排水処理と処理水利用に関する技術協力

農業工学研究所 山岡 賢

第2日目 平成16年9月30日(木)

第2部 地域環境工学シリーズ9「食の安全と地域の豊かさを求めて 新しい畑整備工学」より

9:30~10:40

(1) 基調講演「畑地の整備概論 21世紀の畑に求めるもの」

九州共立大学 黒田 正治

10:50~12:00

(2) 中山間畑地域整備の展開方向と今後の課題

京都大学 三野 徹

13:00~14:10

(3) 畑の多面的機能

農業工学研究所 小前 隆美

14:20~15:30

(4) 持続的農業のための土壌保全

東京農工大学 西村 拓

15:40~16:50

(5) 畑作灌漑と地球環境

人間文化研究機構総合地球環境学研究所 渡辺 紹裕
閉会挨拶

第10回中央研究集会の開催について(第2報)
地域のバイオマスの利活用推進に向けたチャレンジ
(社)農業土木学会・(独)農業工学研究所

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成16年度中央研究集会は、農林水産バイオリサイクル研究(施設・システム化チーム)による研究成果シンポジウムとの合同開催になります。多数の参加をお待ちしています。

1. 主催 (社)農業土木学会・(独)農業工学研究所
2. 日時 平成16年10月13日(水) 10:00~17:00
3. 場所 東京大学弥生講堂(文京区弥生1-1-1 東京大学内)
☎03 5841 8205 FAX 03 5841 8206
4. 定員 300名程度
5. 参加費 無料(合同開催のため)
6. プログラム(予定)

(1) 話題提供

- 1) 農林水産省農林水産技術会議事務局研究開発課
- 2) 農林水産省農村振興局農村整備課集落排水・地域資源循環室

(2) 特別講演

- 1) 迫田章義教授(東京大学生産技術研究所)
- 2) 藤本 潔室長(農林水産省大臣官房環境政策課資源循環室)
- 3) 石渡輝夫室長(北海道開発土木研究所)

(3) バイオマスの地域循環利用システム化技術の開発

- 1) バイオマス資源循環利用診断モデルの開発
(農業工学研究所資源循環研究室: 柚山義人)
- 2) 各種バイオマス変換技術のコスト・性能評価
(日本有機資源協会: 生村隆司)
- 3) マーケティング手法によるバイオマス再生資源の需要者評価
(農業工学研究所総合評価研究室: 合崎英男)

4) バイオマス資源循環システムの空間解析

(農業工学研究所土地資源研究室: 島 武男)

(4) バイオマス利活用の地域実証試験

- 1) 千葉県北東部でのバイオマス多段階利用実証の構想
山田町におけるバイオマス利活用構想

(千葉県山田町農政課: 交渉中)

バイオマス多段階利用システムの構築及び実証試験

(農業工学研究所資源循環研究室: 柚山義人)

- 2) 沖縄県宮古島でのバイオマス多段階利用実証の構想

(農業工学研究所畑整備研究室: 凌 祥之)

(6) 討議 進行: 農業工学研究所畑整備研究室長: 凌 祥之

7. 申込締切 平成16年10月1日

農業土木学会ホームページ(<http://jsidre.or.jp>)の申込書をご利用下さい。

8. 申込・問合せ先 (社)農業土木学会行事企画委員会担当宛

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail: mineko@jsidre.or.jp

* 宿泊は各自でご手配下さい。

農工研が中核機関となり、農林水産省により委託を受けて実施しているプロジェクト研究

第 21 回水土技術セミナー「水利構造物の性能設計」(再) 高度技術セミナー実行委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



世界貿易機関 (WTO) 加盟国は、技術基準の策定に当たっては国際規格を優先し、性能を基準とすることが規定されています。このため、農業農村整備事業における水利構造物の設計法においても、これまでの仕様規定型から性能照査型に移行します。これに合わせ、本学会誌の3月号では「農業水利施設の性能とその照査」と題される小特集が生まれ、また、農林水産省でも土地改良事業に関する設計基準類を性能規定化すべく作業が進められています。

そこで、比較的準備が進んでいるコンクリート構造物の性能設計について専門家に講義していただくセミナーを企画しました。

性能設計への移行は単なる設計基準の改定にとどまらず、性能規定化・国民への説明責任・ライフサイクルコスト・ストックマネジメントなど、技術者として新たな対応を求められています。このため、少しでも早くの対応が必要と考えられることから、ここに本セミナーを企画しました。奮ってのご参加をお待ちしております。

1. 日 時：平成 16 年 10 月 21 日 (木) 10:00 ~
22 日 (金) 16:00 (終了)

2. 会 場：農業土木会館 6F 会議室
東京都港区新橋 5 34 4

3. 定 員：20 名

4. 内 容

性能設計の基本的考え方を理解し、水利構造物に性能設計、特に限界状態設計法、維持管理問題などを、講義や演習を通じて理解する。

5. 講 師 大学、および官庁の専門家

6. プログラム

- (1) 要求性能と性能設計
- (2) 限界状態設計法の基礎
- (3) 限界状態設計法の実際
- (4) 耐久性設計と維持管理
- (5) 性能設計における発注機関の課題

7. 受講費 会 員 40,000 円 (消費税 5% 含む)
非会員 50,000 円 (消費税 5% 含む)

8. 募集締切 平成 16 年 10 月 1 日 (金)

9. 申込方法 学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp> 各種行事
申込書をご利用下さい。

10. 申込先 農業土木学会高度技術セミナー実行委員会担当宛
〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

土地改良施設管理基準「ダム編」の発行について

このたび、標記土地改良施設管理基準が改定され、発行されることとなりました。判型、ページ数、販価は下記のとおりです。ご希望の方は下記あてお申込み下さい。なお、改定の趣旨は、本誌 pp. 65~66 を参照下さい。

記

1. 土地改良施設管理基準「ダム編」

A4判 約 410 ページ
定 価 4,900 円 (消費税内税, 送料学会負担)

2. 申込方法 郵便振替 (00160 8 47993) または現金書留でお申込

み下さい。

3. 申込先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4
(社) 農業土木学会事務局
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

平成 16 年度農業土木学会地方講習会テキストについて

地方講習会は毎年各支部で、開催いたしておりますが、平成 16 年度のテキストは、新たに制定された「土地改良施設 耐震設計の手引き」の解説、「農地地すべり防止対策」の改定の解説、「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き」を取上げます。テキストは学会本部で統一したものを作製し、使用していただいておりますが、地方講習会に出席できない方々のための販売もしております。

テキストの全体構成、販価等は下記のとおりです。ご希望の方

は代金を添えて、下記あてお申込みください。

〔テキスト内容〕

- 1) 土地改良事業計画基準・計画「農地地すべり防止対策」の改定の解説
農村振興局計画部資源課計画基準班
 - 2) 土地改良施設 耐震設計の手引き」の解説
農村振興局整備部設計課設計基準班
- 「耐震設計の工種別・標準設計」の事例について
日本技研(株) 技術開発部

- 3) 環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き (第3編) 「ほ場整備 水田・畑」の解説
農村振興局計画部事業計画課農地整備班
1. 販 価 定価 2,800 円, 会員特価 2,300 円 (税込, 送料共)

2. 申込先 (社) 農業土木学会
〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

「平成 16 年度会員名簿」予約申込みのご案内

本年 11 月中旬発行予定の平成 16 年度農業土木学会会員名簿の予約申込みを, 会員に限り下記のとおり受け付けます。
名誉会員・賛助会員には, 従来同様無料配布いたします。
予約特価 3,000 円 (消費税込, 送料学会負担) (会員に限る)
予約期間後は, 会員価格 3,500 円
予約申込期限 平成 16 年 11 月 5 日 (金)

申込・送金方法 郵便振替用紙 (所要事項記入のうえ郵便局へ振込み), または現金書留 (予約申込書同封) でご送金ください。
申込み・送金先 (社) 農業土木学会
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
郵便振替口座 00160 8 47993

投稿原稿の閲読状況が確認できます!

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集に投稿中の原稿の閲読状況がホームページで確認できるようになりました。
以下の手順で検索して下さい。
学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) を開く。
「論文集」を選択。
「日本語」または「英語」を選択。
日本語の場合は「閲読状況一覧」, 英語の場合は「List of pa-

pers under reviewing」を選択。

投稿した年度を選択 (受領ハガキに表示されている受付番号の上 2 桁が年度を表しています。例: 「04101」の場合は, 「2004 年度」を選択)

PDF ファイルの「閲読状況一覧表」(受付番号, 閲読回数, 閲読依頼日, 閲読返送日) が表示されますので, 自分の受付番号から閲読状況を確認してください。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では, 2003 年 1 月に日本, 韓国, 台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して, 新たな国際学会 国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering) を設立, 機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊, 2004 年 6 月には Vol 2 No 2 が発刊されました。

本ジャーナルは, モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文, 技術論文が多数掲載されますので, 研究者のみならず, 各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は, 次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)

⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003 年 3 月創刊, 以後 3 カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申込みいただけます。

なお、2004年10月22日には、韓国において、PAWEES 国際賞の授賞式が行われる予定となっております。

本国際賞には、功労賞、優秀読者賞、優秀論文賞があります。優秀論文賞には、特に若手を奨励する目的で、沢田賞が設けられており、1名が表彰されることとなっております。

農業土木学会は、300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが、現在会員数は264名(8月現在)と微増はしておりますが、いまだ目標会員数には達していません。そのため、編集業務を含め年間数百万円の赤字体質となっております。この窮状をお察しいたいただき、多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊。2004年6月にはVol.2 No.2が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制:

- Editor in Chief: Dr. Yohei Sato (Japan)
- Editors および Editing Board には世界各国から**斯界の権威が就任しています。**
- Managing Editors: Dr. Yoshisuke NAKANO (Japan), Dr. Nobumasa HATCHO (Japan), Dr. Yoshito YUYAMA (Japan), Dr. Ke Sheng CHENG (Taiwan), Dr. Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社: Springer Verlag社(ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿先: 農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します。

農業土木学会誌編集委員会

73巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

学会誌第73巻4号~5号までの小特集のテーマ(予定)

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切(必着) (A4判用紙,1,500字以内)	原稿締切 (刷上り4ページ厳守)
4号 圃場~流域レベルの水環境管理	" 9月30日	" 11月10日
5号 技術者資格の国際化対応の現状と課題	" 10月25日	" 12月10日

73巻4号テーマ: 圃場~流域レベルの水環境管理

わが国の農業は生産性重視型から環境配慮型・環境保全型へと移行する流れにあります。たとえば、滋賀県の環境こだわり農業への直接支払制度はその先端といえるでしょう。水量・水質両面での健全な水環境の構築のためには、これまで農業土木分野が蓄積してきた、

もしくは今後の新しい技術・管理方法を環境のために最大限に活用・発展させることが一つの手段と考えられます。我々は、灌漑排水技術を軸にして、圃場レベルの営農管理から流域レベルの水循環管理まで多岐・広範囲にわたる管理システムを有しています。

そこで、農業用水の多面的機能、積極的に環境にシフトした新たな水環境管理のあり方や事例紹介、もしくは、そうした管理の実現のための制度的な側面に関する報文を、圃場レベルから流域レベルまで、広い範囲にわたって募集いたします。奮ってご投稿下さい。

73巻5号テーマ：農業土木技術者資格の国際化対応の現状と課題

わが国の産業社会は大きな転換期にあり、科学技術創造立国を目指して技術革新と国際競争力強化を図ることが、国の最重要課題とされています。これを背景として、わが国の技術者をとりまく環境は大きく変化しつつあります。

具体的には、ISOに代表される国際的な品質保証の流れに呼応して技術者の活躍の場がボーダレス化するとともに、技術者能力の多国籍間での客観的な評価指標が必要とされています。このため、APEC技術者相互承認プロジェクトへの対応として、技術士法の改定による資格認定と継続教育、大学等の高等教育機関でのJABEE認定を両輪として、技術者資格と教育課程をリンクさせた国際的に通用する資格制度が整備されてきました。

これらの技術者資格改革の胎動期に、本誌でも「農業土木技術者資格と技術者教育プログラムの国際基準」と題して、小特集(68巻5号)を企画し、多くのご意見をいただきました。

前回の特集から数年を経過し、わが国の技術者資格の国際化対応について、多くの成果や将来への課題も得られたことと考えられます。そこで本特集では、技術者資格国際化対応の実践事例の紹介や、新たに生じてきた課題および将来のあり方について、再度特集を組むこととしました。多数のご投稿をお待ちしております。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」を設けております。

多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと思います。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取り組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり1ページ(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか

—平成17年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成17年も皆さまからの写真で表紙を飾ることを企画しました。つきましては、下記の要領で学会誌第73巻(平成17年1~12月号)の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受付けております。組写真では、3~4枚の写真を組み合わせて、ストーリー性を持たせた写真にしてください。

記

1. **趣旨** 近代に至るまで、わが国の農業土木技術者たちはその時々の技術を結集し、稲作、ひいては国土を支えてきました。こうして築かれた「造形」の多くは周辺の風景と一体化しつつ、今もなお、その機能を十分に発揮しています。

学会誌編集委員会では、農業土木の先駆けとなったそうした農業水利遺産を見直すために、「先人たちの造形が織りなす風景」

をテーマとし、学会誌の表紙を飾る写真を公募します。皆さんの身近なところやふるさとで、先人たちの想いに心寄せながら、心に残る「一枚」を見つけ、ぜひお送りください。

なお、本来の機能を発揮している灌漑期だけでなく、静かにたたずむ非灌漑期の写真も、お待ちしております。

2. **写真の種類** 単写真、組写真いずれもカラープリントでサイズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。
3. **枚数** 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。
4. **締切** 平成16年9月30日(必着)
5. **審査** 審査委員会(編集委員と写真家)で12点を選びます。
6. **結果発表** 学会誌73巻第1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成17年度大会会場でパネル展示します。
7. **賞品** 入選作品1点につき3万円(表紙掲載料含む)。応募

者には記念品をお贈りします。

8. **応募資格** 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。
9. **その他** 応募写真の裏面にタイトル、住所、氏名、年齢、職業、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ)を記入して下さい。また、対象物の名称(固

有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ、だれが、どうして等)もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。

10. **宛先** 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

第53回北海道支部研究発表会の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **期 日** 平成16年10月27日(水)
2. **会 場** 帯広市・とかちプラザ(帯広市西4条南13丁目)
3. **研究発表申込み**
発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名と、発表形式の希望(口頭またはポスター)を、メール、FAXまたは郵送にてお申込下さい。
・**発表申込み締切**:平成16年8月31日(火)
発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。
・**講演集原稿の締切**:平成16年10月8日(金)
4. **参加申込み**
下記様式により、メール、FAXまたは郵送にてお申込下さい。
参加申込み締切:平成16年10月15日(金)

所属機関 _____
同上所在地 _____
申込代表者 _____ TEL _____

氏名	所属	備考

5. **発表・参加申込先**
〒060 8589 北海道大学農学部農業工学科内
農業土木学会北海道支部事務局
担当: 柏木淳一 E-mail:kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
☎011 706 3641 FAX: 011 706 4145
6. **参加費用**
2,000円(当日会場にて申し受けます。)

第33回中国四国支部研修会・第28回地方講習会の開催について(第3報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



中国四国支部第33回支部研修会・第28回地方講習会を10月26日(火)27日(水)の2日間にわたり、開催いたします。詳細については本誌8月号に掲載しましたが、下記のように決定および変更しましたので、お知らせします。

- 10月26日(火) **支部研修会**
11:00~12:00 水田・水路系を生息域とする魚類の保護について 魚類生態から見た水田の意味と水利システムの課題
農業工学研究所水工部長 端 憲二
- 14:00~15:00 「環境保全に配慮した施工事例」 東又東部地区(窪川町)
高知県須崎農業振興センター主幹 藤本 勝
「田園空間博物館中芸東部地区の活動について」
中芸東部地区(室戸市、奈半利町、北川村)
高知県安芸農業振興センター主幹 西本 一昭
- 16:00~16:50 「環境保全型農業の現状と推進について」
中国四国農政局整備部農村整備課集落排水係長

吉松 猛

- 10月27日(水) **地方講習会**
10:10~11:10 土地改良事業計画設計基準・計画「農地地すべり防止対策」の改定の解説
農村振興局計画部資源課計画基準第2係長
黒川達也
農業工学研究所造構部広域防災研究室主任研究官
中里裕臣

「訂正」8月号会告でお知らせした内容の一部に誤りがありませんでした。お詫びして、下記に訂正いたします。

- 10月27日(水) **地方講習会**
13:10~14:10 「耐震設計の工種別・標準設計」の事例について
日本技研(株)品質保証部 副参事
立石 卓彦
- 15:10~15:20 閉会あいさつ
中国四国農政局高瀬農地保全事業所長
松村 治宏

- 研究発表：課題 数値水理，環境水理，実験水理など水理に関わる自由課題
4. **研究発表申込み** 11月5日(金)まで
氏名，所属，講演題目，連絡先(複数の場合は代表者)を明記のこと(FAX, E-mail可)
 5. **研究発表原稿締切** 11月19日(金)まで
(原稿はA4版用紙6枚程度，様式は自由ですが学会論文集原稿形式か，学会講演会要旨集形式か，どちらかを標準にします)
 6. **参加費** 講演会要旨集代金相当を当日受付にて徴収
一般2,000円，学生1,000円
 7. **情報交換会** 12月16日(木)18:00~20:00予定
 8. **問合わせ** 〒840 8502 佐賀市本庄町1
佐賀大学農学部 加藤 治
☎0952 28 8755 Fax 0952 28 8709
E-mail kato@cc.saga-u.ac.jp
 9. **宿泊** 恐れ入りますが，各自でご手配下さい。

第42回材料施工研究部会シンポジウムの開催について(第1報)

材料施工研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **主催** 農業土木学会材料施工研究部会
 2. **共催** 独立行政法人農業工学研究所
 3. **後援** 農林水産省
 4. **テーマ** 水利施設のストックマネジメント(仮)
 5. **講師** 農林水産省・研究所・大学・民間の研究者および技術者
 6. **期日** 平成16年12月17日(金) 10:00~16:00
 7. **会場** つくば国際会議場 大ホール(450席)
〒305 0032 茨城県つくば市竹園2 20 3
☎029 861 0001 <http://www.epochal.or.jp/>
 8. **参加費** 4,000円(テキスト代)
当日受付で徴収させていただきます。
 9. **申込** 参加者氏名，所属機関名，所在地住所，
 10. **申込先** 〒680 8553 鳥取市湖山町南4 101
鳥取大学農学部 気付 材料施工研究部会事務局
申込担当: 林 麻美
☎&FAX: 0857 31 5583
E-mail: hayashi@kiban.muses.tottori-u.ac.jp
 11. **申込締切** 平成16年11月30日(火)
 12. **宿泊** 各自でご手配下さい。
 13. **問い合わせ先** 申込先と同じです。
 14. **その他** 詳細は，本誌次号に掲載予定です。
- TEL, FAX, E-mail, 弁当希望の有・無，をお書きの上，FAXもしくはE-mailにてお申込み下さい。また，表題として，「材料施工研究部会シンポジウムの参加」と明記して下さい。

第51回 風に関するシンポジウムの講演募集について

1. **日時** 平成17年1月28日(金)13:00~17:00(予定)
2. **場所** 化学会館 7階ホール
千代田区神田駿河台1-5(地図参照)
JR中央線・総武線「御茶ノ水」駅下車徒歩3分，地下鉄丸の内線「御茶ノ水」駅下車徒歩4分，地下鉄千代田線「新御茶ノ水」駅下車徒歩5分
3. **開催要領**
 - (1) 一般講演(講演時間15分~20分)
 - (2) 特別講演「南極の風と地球環境」
国立極地研究所所長渡邊興亞氏(元・観測越冬隊長，理学博士)
4. **参加費** 500円(学生は無料)
5. **参加申込方法** シンポジウムへの参加を希望される方は，氏名，所属，連絡先(住所，☎/FAX, E-mail)，懇親会参加の有無を下記あてにE-mailまたはFAXにてお申し込み願います。
6. **一般講演申込方法** 参加者の中で，発表を希望される方は，発表題目，発表者名(連名の場合には講演者に印)，所属，代表者の連絡先(住所，☎/FAX, E-mail)，簡単な発表要旨，講演で使用予定の機器(パソコン，OHP，スライド等)を下記あてにE-mailまたはFAXにてお申し込み願います。
7. **プログラム** 講演申込締切後，プログラム編成を行い，参加申込者に後日連絡します。
8. **講演発表の申込期限** 平成16年11月30日(金)
9. **問合せ先・申込先**
〒101 8308 千代田区神田駿河台1 8 14
日本大学理工学部 建築学科 三橋博巳
同 土木工学科 野村卓史
☎/FAX 03 3259 0411 E-mail: nomura@civil.cst.nihon-u.ac.jp
10. **共催学会** 農業土木学会他17学会
11. **その他** シンポジウム終了後，懇親会を予定しています。奮ってご参加下さい(予定3000円)。